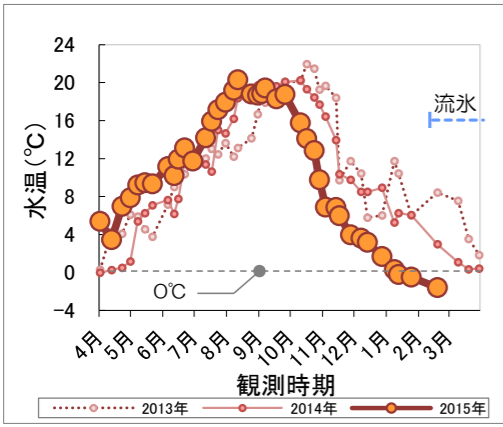


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2016年2月)

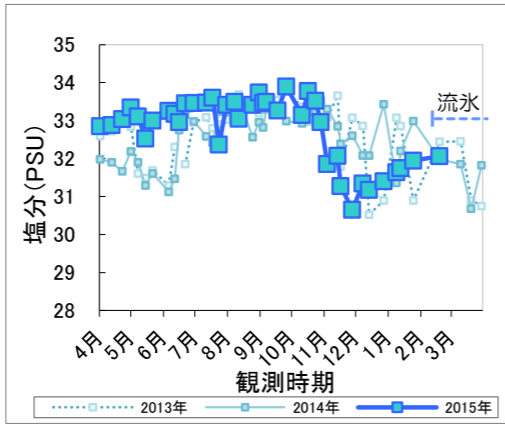
海洋環境データ

◎水温 (0~9mまでの平均値)



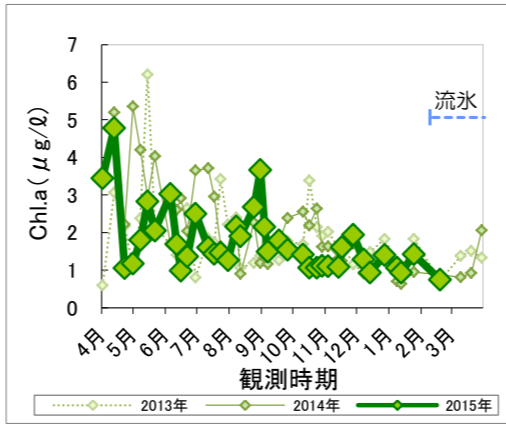
※2016年 1月27日：流水初日、2月24日：接岸初日 発表

◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※2016年 1月27日：流水初日、2月24日：接岸初日 発表

◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

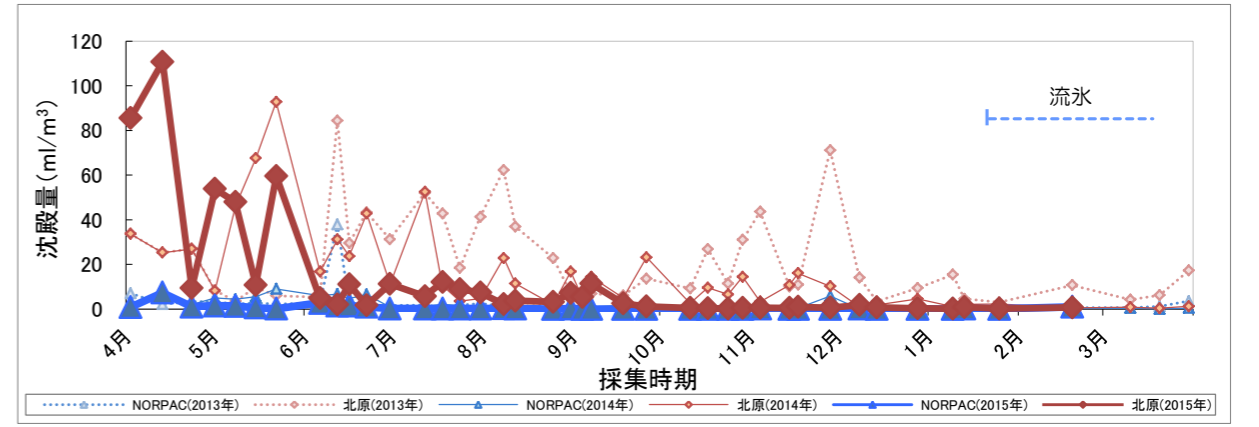


※2016年 1月27日：流水初日、2月24日：接岸初日 発表

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



※2016年 1月27日：流水初日、2月24日：接岸初日 発表

概要

2月19日	
平均水温 (°C)	-1.6
平均塩分 (PSU)	32.1
平均Chl.a (µg/l)	0.7
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 1.0 (北原式定量ネット) 0.8
主な出現種	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○ <i>Neocalanus flemingeri</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性]</p> <p>○ <i>Neocalanus plumchrus</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性]</p> <p>◎ <i>Pseudocalanus minutus</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性]</p> <p>◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] (カイアシ類の1種) [冷水性]</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○ <i>Eurytemora herdmani</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性]</p> <p>○ <i>Acartia hudsonica</i> [+] (カイアシ類の1種) [汽水性]</p> <p>○ <i>Acartia longiremis</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性]</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>(北原式定量ネット)</p> <p>○ <i>Pseudocalanus minutus</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性]</p> <p>◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] (カイアシ類の1種) [冷水性]</p> <p>○ <i>Eurytemora herdmani</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性]</p> <p>○ <i>Acartia hudsonica</i> [+] (カイアシ類の1種) [汽水性]</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○ <i>Acartia longiremis</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性]</p> <p>◎ <i>Oithona similis</i> [++] (カイアシ類の1種)</p> <p>◎ Copepoda (nauplius) [++] (カイアシ類のノープリウス幼生)</p> </div> </div>
備考	<p>○ (NORPACネット) 腐植質多い</p> <p>○ (北原式定量ネット) —</p>

出現量の多かった種類

● *Neocalanus flemingeri**
(カイアシ類の1種：社坊双・ルミガリ)
体長：♀4.2-5.2mm, ♂4.2-4.6mm。北太平洋の寒帯・亜寒帯海域。寿命は1年1サイクルであるが、一部2年1サイクルの個体も知られ、コペポイド期幼体は表層に、成体は中・深層に分布する。

● *Neocalanus plumchrus**
(カイアシ類の1種：社坊双・ブルカガリ)
体長：♀4.3-6.3mm, ♂4.3-4.6mm。冷水性、汽水性。ニシン、サケ等の魚類の好餌。成長にもなった胎生移動をすることが知られ、コペポイド期幼体は表層に、成体は中・深層に分布する。

● *Pseudocalanus minutus*
(カイアシ類の1種：社坊双・マダマ)
体長：♀1.4-2.1mm, ♂1.1-1.6mm。北半球の寒帯・亜寒帯および北太平洋寒帯海域。日本では主に親潮流域に分布。産卵する *Pseudocalanus newmani* に比べてやや大型である。

● *Pseudocalanus newmani*
(カイアシ類の1種：社坊双・ユガ)
体長：♀0.9-1.5mm, ♂0.8-1.2mm。冷水性。世界各地の冷水域に出現する。東北以北の沿岸では冬季産卵カイアシ類の1種となる。

● *Eurytemora herdmani**
(カイアシ類の1種：社坊双・マダマ)
体長：♀1.3-1.4mm, ♂1.1-1.2mm。主に北半球高緯度地方に分布。日本では北海道沿岸の冷水域、青森十三寒帯で知られる。雌のみ体の後端が鋭形に左右非対称に突出するが特徴。

● *Acartia longiremis**
(カイアシ類の1種：社坊双・マダマ)
体長：♀1.0-1.4mm, ♂0.9-1.2mm。冷水性。世界各地の冷水域沿岸に出現する。日本では主に東北から北海道沿岸に分布する。

● *Oithona similis*
(カイアシ類の1種：社坊双・マダマ)
体長：♀0.7-1.0mm。各地の沿岸・沿岸・外洋で普通に出現。日本各地の沿岸に知られる代表的な種。各大陸に広く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。

● Copepoda (nauplius)
(カイアシ類のノープリウス幼生)
カイアシ類の発生中の幼生。脱皮を繰り返してノープリウス、コペポイト幼生の段階を経て成体になる。産卵後、産卵後には、産卵したカイアシ類のノープリウス幼生が決定胎といわれている。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者主観による個体数の多さを示す ([+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[+++++]極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す (◆冷水性種、●暖水性種、■汽水性種)。

※今月のサンプルには腐植質 (主に枯死・分解した植物由来の物質) が多く含まれており、沈殿量および湿重量はこれを含んだ数値で示す。

※沈殿量の“0.0”表示は四捨五入の都合上、“0.1 (ml/m³)”未滿になったことを示す。

※参考文献：①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説 [東海大学出版会] / ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑 [保育社] / ③岩国市立微生物学館 監修 (2011) 日本の海洋プランクトン図鑑 [共立出版]

④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods. 8: The *Danielssenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.

⑤Pinchuk, A. I., Hopperoff, R. R., 2006. Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.

⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門 [恒里社厚生館] / ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima, 2005. A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.

⑧西・加藤 (2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について。タカラ第13号, 5-17. / ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類 [生物研究社] / ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) すかん プランクトン [技術評論社] / ⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち [北海道新聞社]

※ *Neocalanus flemingeri*, *N. plumchrus*, *Eurytemora herdmani* および *Acartia longiremis* は今月の優占種に含まれていたが、参考として記載した。